

## 【事例 H27-02-02】 宮城県角田市

生きる支えになった一言募集  
＝「私を元気にしてくれた言葉」＝

子供たちが自己肯定感を持てるような環境づくりを目的として、「私を元気にしてくれた言葉」を募集し、冊子とクリアファイルにまとめて児童生徒・保護者・学校関係者等に配布した。

【実施主体】 宮城県角田市

【大綱の分類】 国民一人ひとりの気づきと見守りを促す

【事業予算】 平成 26 年度 90 千円 ( 90 千円 )

【利 点】

日頃子ども達が、家族・友人・先生などから掛けてもらった「私を元気にしてくれた言葉」を募集し、それを冊子やファイルにまとめ保護者等にお返しすることで、子どもの気持ちを理解したり自己肯定感を高める関係づくりの助けになったと思われる。

翌年には教育委員会と健康推進課の共催で、子ども達の自己肯定感を高め自分を大切にできるように、また子ども達の SOS に気づき学校や地域が連携し支援できるように外部講師を招いた講演会の開催につながった。

【実施に至るまで】

【背景・必要性・理由の概要・等】

市で実施した健康づくりアンケート調査の結果、「自ら死のうと考えた経験がある」と答えた人が 20 歳代 41.5%であり、「自殺対策に関する意識調査」の 20 歳代 28.4%と比較して顕著に高かったため。

【計画を立てる上での工夫・等】

- ・ 角田市自殺予防対策推進会議に選考を依頼することで、各委員の理解を深め、教育委員会、各学校への連絡をスムーズに行うことができた。教育委員会の協力により、一人一人の先生方が主旨を理解し、実施することができた。

【具体的な内容・実施の過程】

- ・ 角田市内の小学生 4・5・6 年生、中学 1・2・3 年生 (計 1,640 名) を対象に、子供自身が元気をなくした時や心が傷ついたときに、家族や友人・先生などがかけてくれた「私を元気にしてくれた言葉」を募集した。
- ・ 角田市自殺予防対策推進会議にて、自殺予防普及啓発ファイルに掲載する言葉を各学年から一つ選出した。
- ・ 「私を元気にしてくれた言葉」は、715 人 (43.6%) から応募があった。冊子にまとめ対象学年の生徒及び学校に配布した。選考結果を Web サイトに掲載し閲覧できるようにした。
- ・ 記念品として、応募者全員に自殺予防普及啓発缶バッジを進呈した。

**【成 果】**

▼「私を元気にしてくれた言葉」の募集事業をきっかけに学校との連携が強化され、平成26年度は中学校1校において宮城県「若年者早期支援事業」の活用に繋がった。

**【課 題】**

家庭、学校、地域が連携を図りながら、今後も子ども達の自己肯定感を高める方法を検討していく必要がある。

**【事業種別】** 普及啓発事業

**【準備期間・人数】** 8ヶ月・1人

**【予防段階】** 1次

**【自治体規模】** 人口 3万人（H27国勢調査から）財政規模143億7,000万円

**【自治体負担率】** 無し（自殺対策緊急強化事業を活用）

**【事業対象】** 角田市内の小学生4・5・6年生、中学1・2・3年生（計1,640名）の保護者

**【支援対象】** 角田市内の小学生4・5・6年生、中学1・2・3年生（計1,640名）

**【実施主体・問合せ先】** 宮城県角田市役所市民福祉部健康推進課

TEL:0224-62-1192、E-mail:welpark@Kakuda.miyagi.jp

**【参考資料・文献】** 平成24年版自殺対策白書に掲載された「自殺対策に関する意識調査」